

# 令和4年度 ふるさと秋田農林水産大賞 受賞おめでとうございます！

## かづの農業協同組合 きゅうり生産部会



「JAかづの生産部会の牽引役」  
部会員128名、生産面積10.4ha、販売金額363百万円で、露地きゅうり生産における県内JA一の販売実績を誇り、もっとも魅力的な生産部会として活躍されております。JAかづのや、鹿角市の支援もあり、きゅうりで就農する新規参入者が他品目に比べ多いことが、大きく評価され、本受賞となりました。  
JA生産部会の牽引役として今後の益々のご活躍を期待します。

## 「新農業士」を紹介します



指導農業士

なかむら たかひろ  
中村 一大さん

花き部門で6品目の栽培を行っており、特にトルコギキョウの抑制栽培では省力化・高品質栽培を実践するなど高い市場評価を得ています。

また、JAかづの花き生産者部会の部会長を歴任するなど、花き振興の牽引役として活躍されています。



指導農業士

なりた かずよし  
成田 和由さん

平成30年に(農)なりた農園を設立し、代表を務めるとともに、花きと野菜の周年農業を実践されています。

また、現在JAかづの花き生産者部会の副部会長を務めるなど、地域農業のリーダーとして活躍されています。

**トピック** 令和5年10月1日から  
消費税のインボイス制度(適格請求書等保存方式)が始まります

### インボイス制度とは

取引相手に正確な適用税率や消費税額を請求書、領収書、レシート、納品書等に記載し伝えるものです。インボイスを発行できるのは、税務署長の登録を受けた「インボイス発行事業者」だけです。

インボイスに関する詳しい内容については、国税庁HPの「インボイス制度特設サイト」や、農業振興普及課またはお近くの税務署にご相談ください。

この印刷物は2,520部作成し、印刷経費は1部あたり13.8円です。

普及指導だより

# 青垣の風

No.169 令和5年1月1日

＝編集・発行＝

鹿角地域振興局農林部農業振興普及課  
TEL 0186-23-3683 FAX 0186-23-7069



園芸部門



果樹部門



水稻部門

令和4年度は、収量安定化と省力化の両立を目指し、様々なスマート農業実証試験が実施されました。

**園芸部門(きゅうり)**：廉価版自動灌水システムを導入し、高品質・省力化を実証。

**果樹部門**：最大で30aを刈り取ることが出来る自動草刈り機を導入し、省力化を実証。

**水稻部門**：水田水位センサー及び自動給水ゲートを導入し、水管理作業の省力化を実証。

## 新年のごあいさつ

鹿角地域振興局農林部農業振興普及課  
課長 泉 誠



新春を迎え皆様の御健勝をお祈りいたしますとともに、鹿角地域農業の一層の発展を祈念し年頭の御挨拶とさせていただきます。

まずは、昨年8月の大雨により農作物等を被災された方々にお見舞い申し上げます。また、国際情勢や経済環境の変化により、様々な農業資材が高騰し営農にご苦労されていることと思います。

厳しい外部環境ではありますが、課題に対応する技術支援や補助事業活用を通じ、皆様の農業経営が発展するよう当課職員一同全力で取り組んでまいります。今後とも御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

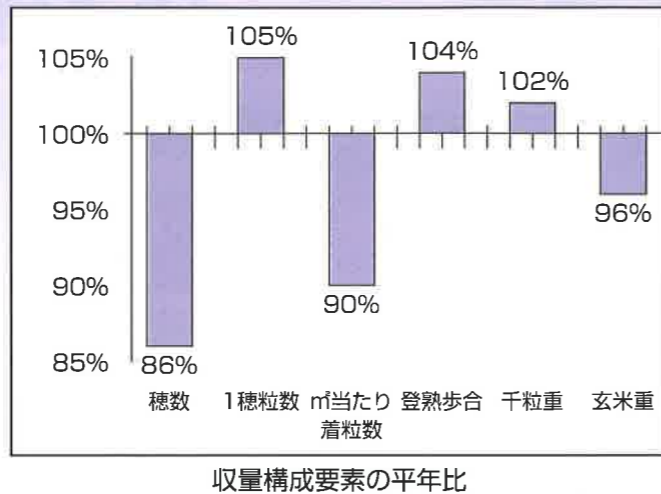
R70  
省紙/省エネルギー/省コストを実現

# 令和5年度に向けた技術対策等のポイント

## 水稲 令和4年度水稲作柄状況

令和4年度の水稲定点調査（管内5地点、あきたこまち）では、10a当たりの玄米重は564kg（**平年比96%**）と平年より少なくなりました。一穂粒数は多くなったものの、穂数が平年比**86%**とかなり少なくなったため、㎡当たり着粒数は少なくなり、登熟歩合や千粒重が平年と比べて高まったものの、収量は少なくなりました。

管内の玄米品質は、1等米比率が95.2%（11月末現在）となっており、2等以下の落等理由は、斑点米カメムシ類による着色粒が最も多くなりました。



収量構成要素の平年比

## 野菜 施設トマトにおける高温時の着果不良対策について

令和4年は、6～7月の高温による着果不良が目立ちました。高温時の着果不良対策として、植物成長調整剤「トマトーン」の活用が挙げられますが、高濃度で使用すると発生が多くなる「先とがり果」が目立ちました。

「先とがり果」への注意点としては、①高温時は高濃度で使わない、②早朝散布を心がける、③重複散布しない、④水不足にしない等が重要です。



先とがり果

薬剤の使用方法を遵守し、収量向上を目指した栽培管理をしましょう。

## 花き 県オリジナル品種「あきた清ひめ」の安定生産に向けて



葉焼け対策遮光試験  
（手前：白寒冷紗、奥：ダイオフララ）

シンテップウユリ「あきた清ひめ」が鹿角地域に導入・生産されていますが、①栽培1年目の草丈確保、②葉焼け症状の軽減が安定生産のための課題となっています。

葉焼け対策として遮光試験したところ、葉焼け程度や発生葉数の軽減効果は得られましたが、本年は葉焼けが多発した令和3年夏ほどの高温ではなかったこともあり、異常高温年でも葉やけが軽減できるかの確認が必要と思われました。

また、草丈確保に向け、灌水回数を増やす試験を行いました。十分な草丈（85cm以上）を確保できませんでした。

「無花粉」という実需者ニーズの高い「あきた清ひめ」の安定生産に向け、次年度も継続して対策試験を行っていきます。

## 果樹 発生が多かったリンゴ褐斑病対策

令和4年の7～8月降水量は、平年比208.7%と多く、病害の発生に大きな影響がありました。そのうち、褐斑病は地域全体で非常に多く確認されています。

### 1 薬剤防除

#### ①特徴

リンゴ褐斑病は、前年の被害落葉からの子のう胞子が5月下旬～6月中に飛散し、一次伝染します。その後二次感染を繰り返す、7月～8月の降水量が多い年に多発します。

#### ②防除のポイント

長く特効剤として使用されていたトップジンM水和剤ですが、現在は、耐性菌が蔓延しています。そのため、7月～8月上旬の薬剤はユニックス顆粒水和剤を基本とします。

### 2 耕種的防除

#### ○薬剤到達性の高い樹形作りを心がける

密植や枝の重なりによって、薬剤のかけもれが起こりやすくなります。

冬季剪定や夏季剪定でなるべく枝を整理するようにしましょう。



褐斑病の罹病葉

## 畜産 牧草の高品質多収栽培に取り組んでみませんか？

国内外の情勢から、家畜の飼料など諸経費の高騰が続いています。これらの影響を少しでも緩和するため、近くの畑で牧草の高品質多収栽培に取り組んでみませんか？

草種としては、オーチャードグラス、チモシー、リードカナリーグラスなどがあります。夏場に除草剤等の使用により多年生の雑草を中心に抑制すること、堆肥を有効に活用することがポイントとなります。播種は9月上旬が適期です。収穫は翌年以降の6月、8月、10月を基本とします。追肥は、雪解け後、収穫後に速やかに施用し、その年の最終収穫の後には施用しません。

牧草の高品質多収栽培に取り組みたい方は農業振興普及課畜産担当までお気軽にご相談ください。

## お知らせ

### 令和5年度未来農業のフロンティア育成研修生 2次募集について

#### ●研修期間

令和5年4月～令和7年3月（2年間）

#### ●応募資格

研修終了後に県内就農が確実で、原則50歳未満の方 等

#### ●募集が切

令和5年1月12日



#### 【お問い合わせ】

鹿角地域振興局農林部農業振興普及課 担い手・経営班 TEL:0186-23-3683